

## 交換留学レポート

留学先国・地域	スウェーデン	留学先大学名	ヨーテボリ大学
高知大学での所属	人文学部国際社会コミュニケーション学科	留学先での所属	教育学部
留学期間	2017/8/22	～	2018/6/17

### 学習に関すること

ヨーテボリ大学での授業は、どれも教授と生徒、そして生徒同士のインタラクションが盛んで、興味深いものばかりでした。授業コマ数は、1学期あたり3～4個、授業日は週に3日程度と、日本の大学と比較するとかなり少ないです。しかし、その分一つひとつの授業の内容が濃く、クラス外で授業準備を行うなど能動的な姿勢が求められたと感じます。私は、スウェーデンの教育制度、成人教育、子どもの権利、日本語教育実習など、主に教育学部の学部レベル向けのコースを中心に履修しました。授業の大変さは、ある程度覚悟していましたが、やはり留学当初は、口頭発表や授業での発言など満足できないことが多々ありました。世界各国から来た留学生と、自国の教育制度や国の抱える問題について話し合う機会が多くあり、そのたびに語学力だけではなく、自分の知識の薄さにも気づかされました。そのため、授業ごとに小さな目標を決め、それをクリアできるように取り組みました。まだまだ未熟ですが、少しは成長できた気がします。苦しく、もがいた時間は、勉強と真剣に向き合った証拠だと思えますし、自分に欠けている部分を明らかにしてくれる良い経験になりました。また、教育学部で授業を受けたことで、将来先生を目指している学生とお互いの目標などを話すことができました。教員志望の私にとっては、非常に有意義な時間を過ごすことができました。学部によっても異なりますが、どの授業も基本的に、リーディング課題やグループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークがあります。グループメンバーと授業日以外にも集まって、フランクな雰囲気の中課題に取り組んだのもいい思い出です。

ヨーテボリ大学の授業を通して、印象に残った点がいくつかあります。その一つに、クラスメート同士助け合って、単位を取ろうという姿勢があることです。例えば、日本の大学ではレポート課題は、“個人作業”というイメージがあると思います。しかし、ヨーテボリ大学では、クラスメート同士でレポート評価をする機会が多くありました。この活動は、相手のレポート作成の手助けになるだけでなく、その人の良い点を自分のレポートにも生かすことができる点で非常に勉強になりました。このような形式は、日本の大学で経験したことがなく、さらに相手のレポートを批評するという責任があります。そのため、緊張もありましたが、最終的に、相手のみならず、自分自身も満足いくレポートを仕上げることができたと思います。

授業で課される課題の量は、今までの大学生活の中で一番多かったといっても過言ではありません。しかし、それと同時に、一番能動的に勉強に取り組んだ時期であったと振り返ります。私は、日本の大学で、英語教育などの教育分野の勉強を行ってきました。今回留学を通して、以前から興味のあったス

## 交換留学レポート

ウェーデンの教育制度などを体系的に学ぶことができました。現場で働く先生から生の声を聴く機会もあり、自分の思い描いていた理想と現実の違いなど、数多くの気づきもありました。この留学を通して見つけた興味のある分野の学習、そして学習に対する姿勢を忘れず、日本での大学生活に取り組もうと思います。

### 生活に関すること

スウェーデンで過ごした10か月間は、夢のように幸せで、非常に充実したものとなりました。それは、スウェーデンで出会った素敵な仲間や留学にあたりサポートしてくださった方々のおかげだと実感しています。平日は授業や課題に取り組み、週末は友人宅でパーティーをしたり、ピクニックをしたりと、楽しい時間を過ごすことができました。

スウェーデンは、日本のように自然が豊かで、街中にも緑があふれています。冬場の寒さは予想通りの厳しいものでしたが、南国育ちの私は、その寒さを思う存分楽しみました。しかし、冬場の暗さに慣れるまでは、少し時間がかかりました。日に日に短くなっていく日照時間に、心躍らせながらも、眩しい太陽が恋しく感じる時もありました。

この留学生活は、私にとって初めての一人暮らしでした。新しい生活に不安がありつつも、期待に胸を膨らませていた留学前が、つい昨日のこのように思い出されます。寮生活においては、留学当初に寮火災が起こるなど、災難にも見舞われ、その時ばかりは、慣れない土地での思いがけない出来事に、不安を感じました。しかし、ヨーテボリ大学・高知大学を初め、様々な方からお気遣いの連絡をいただき、非常に嬉しかったです。その他、不安なことも数えきれないほど経験しましたが、実際挑戦してみればどうにかなるものばかりで、今となっては全て良い思い出です。また、留学を通して、自分としっかり向き合うことができました。滞在中の生活のことはもちろん、将来のことなど、日本にいたらここまで真剣に考えなかつたらろうと思います。素敵な友人たちから、物事に対する姿勢や考え方を数多く学びました。彼らとの出会いは、私の一生の財産となると思います。

また留学中には、スウェーデンならではの文化を体験することができました。特に、フィーカは日本に持って帰りたいものの一つです。フィーカとは、コーヒー、お菓子とともにお茶をする時間のことを指します。子どもからお年寄りまで誰もが楽しむスウェーデンの文化の一つで、大学の授業にもフィーカの時間がありました。会社等でもフィーカの時間があり、コーヒー片手にミーティングをするそうです。デジタル化が進んでいるにも関わらず、人と人が対話する時間を重んじているスウェーデン人の考え方は、とても素敵に感じました。

時間を忘れ、お菓子作りをしたり、日光浴をしたり、スウェーデンのゆっくりとした時間の流れが、私は大好きでした。この10か月間で、旅行者の立場からでは見えない部分を知ることができ、スウェーデンに留学してよかったと心から思います。